

氏名	藤澤真義
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 2597号
学位授与の日付	平成15年9月30日
学位授与の要件	医学研究科病理系病理学(一)専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	CD56-positive Cells with or without Synaptophysin Expression Are Recognized in the Pancreatic Duct Epithelium: A Study with Adult and Fetal Tissues and Specimens from Chronic Pancreatitis (膵導管上皮でのシナプトフィジンの発現を伴う、あるいは伴わないCD56陽性細胞の同定:成人、胎児組織、慢性膵炎の標本による検討)
論文審査委員	教授 吉野 正 教授 白鳥 康史 教授 佐々木 順造

#### 学位論文内容の要旨

25例の胎児、1例の乳児、3例の成人、4例の糖尿病、8例の慢性膵炎の膵組織において、導管上皮でのCD56陽性細胞の分布を検討した。妊娠初期では、CD56陽性細胞は未熟な導管でしばしばラ氏島に連続して存在し、シナプトフィジン陽性細胞と同様の分布を呈していた。発生が進むにつれこれらの細胞は減少する一方、妊娠24週以降の胎児膵組織では、小葉間導管の管腔を構成する細胞の一群に、CD56の発現が認められた。同様のCD56陽性細胞の集簇は慢性膵炎組織ではあらゆるレベルの導管に見られたが、成人の正常膵組織や糖尿病膵組織ではまれにしか認めなかった。これらの細胞はシナプトフィジンの発現やラ氏島の形成とは関連がなかった。以上より我々は、妊娠初期のラ氏島の発生に関連すると思われるCD56陽性内分泌細胞と、導管の成長・再生に関係すると思われるCD56陽性管腔細胞の2種類のCD56陽性細胞が膵管上皮に存在すると結論した。

#### 論文審査結果の要旨

本研究はCD56(neural cell adhesion molecule)の膵における発現を胎児、成人、糖尿病、慢性膵炎の組織で免疫組織学的に検索したものである。その結果、膵導管系で2種類のCD56陽性細胞を同定した。ひとつは妊娠初期の胎児膵組織に存在しLangerhans島の形成に関係する内分泌細胞であり、他は妊娠中期以降の胎児膵組織および慢性膵炎組織に存在し、内分泌系と関連のない管腔細胞である。実験の目的、手法、結果とその解釈とも適切になされており、この抗原を発現する膵細胞の位置付けをする点で、重要な知見を得たものとして価値のある業績と認める。よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。